

# ジャパンソルト

—上期業績とその内容分析について。

大川 上期については前年同期比103%の増収、113%の増益で着地した。ただし営業損益で見ると、円高による為替差損益を加味しても16%の減益で、営業外収支の拡大および特別損失の削減によって純利益がプラスになるとい

う、非常に厳しい中間決算の内容となった。予想以上に塩の需要回復が遅れている上に、価格競争のさらなる激化に見舞われ、継続して厳しい経営環境に置かれていることが主たる理由。

## 社長 大川 洋氏



— 今期の計画と方針、の育成が進み、コアビジネス価格競争の激化によって苦戦しているもの、当社のお客さまごとの要望を迅速に大型自動充填機の導入、ムが始まるので、物流コストの縮小均衡をしっかりと戦っているもの、当社の速かつ正確に把握/実現し設置が完了予定であり、来トを大幅に下げることが期待されている。品質管理部門では継続して多方面から

大川 コアビジネスの塩カバールし始めている。軸足強みとするこだわりの食塩速かつ正確に把握/実現し設置が完了予定であり、来トを大幅に下げることが期待されている。品質管理部門では継続して多方面から

の強みでもある数百アイテム、サードコアビジネスの、くかが、次の5年、10年を、とほぼ変わらぬの売上げで

### 予想以上の需要回復遅れ

### こだわり分野、伸び顕著

△のこだわりの塩部門の伸 化成品ビジネスをどれだけ 決めると考えている。 推移したものの、下期には 設置は12月中旬頃を予定。 どの設備投資はないが、代

長は「数年勢いを見せて 伸長させられるかが大きな こだわり食塩分野とい 仕込んできた大型案件の成 完成すると月産40t近くの わりに再度、品質管理マニ

に伸長させていきたい。 経営目標となっている。 最近の御社のトピック がちだが、激変していく食 品部門では当社の輸入する ロジスティクス部門では 顧客からの当社商品の安全

また、セカンドコアのこ クスなど。 大川 コアビジネスの塩 とはお客さまがこだわらた つつあり、今後も成長分野 テナ配送の競争力を高める 努力を継続する。

(アンケート回答)